

国連ウィメン日本協会 おおさかニュース vol.8

発行：国連ウィメン日本協会大阪

発行：2025.4月



「北京 + 30」の先へ

国連ウィメン日本協会大阪 会長 三輪 敦子



平和とジェンダー平等

2025年は、平和、そしてジェンダー平等にとって、様々な意味で重要な年です。第二次世界大戦終戦80周年、国連創設80周年であり、日本が女性差別撤廃条約を批准して40周年になります。大阪からも多くの女性が参加した第4回世界女性会議（北京会議）で採択された北京宣言・行動綱領30周年にもあたります。

そして、「女性と平和・安全保障」という新しい問題領域を生んだ安保理決議1325号採択25周年でもあります。

毎年3月には、国連に各国政府が集まり「女性の地位委員会（CSW）」が開催されますが、今年は「北京+30」をテーマに、北京会議後30年の進展と課題が議論されました。

北京会議後30年を一言で表現するならば、「確かに進展した分野はある。しかし30年前には想像できなかったレベルのバックラッシュ（反発と抵抗）が世界中で多くの女性と少女の人権、命、尊厳を脅かしている」ということになるかと思います。

また、紛争下における性的暴力という30年前には明確に課題化されていなかった問題にも十分な進展は見えません。そして、深刻さを増す気候危機、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、平和の兆しが見えないウクライナや、ガザでの武力紛争が少しずつ進展していた女性と少女の状況を後退させています。



女性の権利の進展と課題

UN Women(国連女性機関)が発行した『北京会議30年後の女性の権利（Women's Rights in Review 30 Years After Beijing）』では以下のようなデータが示されています。

- ①30年間で国会議員に占める女性の割合は2倍以上に増えたが、それでも4人に1にとどまる。
- ②2022年以降、紛争に関連する性的暴力が50%増加した。被害者の95%は女性と少女である。
- ③女性は、今も男性の2.5倍の無償のケア労働を担っている。
- ④2003年から2023年にかけて女性の婚姻に占める児童婚の割合は24%から19%に減少した。しかし最貧困層世帯ではあまり減少していない。
- ⑤2015年以来、妊産婦死亡率には変化が見られない。

女性の経験と声を政策に活かして 平和の創造を

この中の①や③は、日本の深刻な課題でもあります。第5回世界女性会議が開催される見込みがないのも残念な状況です。

背景にあるのは、「性と生殖に関する健康と権利」そしてLGBTを始めとする性的マイノリティの課題に関する深刻な対立と分断であり、その深刻さは、ほとんど戦場と表現できるレベルです。そして何より、男性ばかりが武力紛争の終結や平和を語っては、世界は決して平和にならないと痛感しています。

武力紛争下の女性の経験と声を政策に反映し女性たちが主導し、暴力のない平和をつくりたいと思います。

国連ウィメン日本協会大阪 設立20周年記念

「ジェンダー平等で、ともに未来をつくろう」2024年4月29日(月・祝)

会場：クレオ大阪中央 主催：国連ウィメン日本協会大阪、(一財)大阪男女いきいき財団



国連ウィメン日本協会大阪は、女性のための国連機関であるUN Womenを大阪から支援する協力協定団体として2004年に設立し、2024年2月に20周年を迎えました。

それを記念して、国連ウィメン日本協会大阪設立20周年記念イベントをクレオ大阪中央で開催しました。

基調講演には、(公財)市川房江記念会 女性と政治センター理事長、元国連女性差別撤廃委員会委員長の林陽子さんをお招きし、ジェンダー平等に関する日本の現状と政策課題についてこれまでを振り返りながら紹介いただきました。林さんの「女性の権利は人権であり、これからも足踏みすることなく、仲間を作り熱意をもって行動しよう!」というメッセージは、当日参加された方への力強いエールになりました。



その後のトークセッションには、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク共同代表の石田絹子さん、西村かつみさん、DPI女性障害者ネットワーク代表の藤原久美子さんが登壇され、職場における男女の賃金格差や障害と女性という2つのアイデンティティに基づく交差性、複合差別という課題の解決に向けた具体的な活動や取組をお聞きしました。



ワーキング・ウィメンズ・ネットワークのお二人からは、国連女性差別撤廃委員会への働きかけから「勝利和解」を経て、管理職へ昇格されるまでの約10年に亘る道のりの中で感じた想いを直接伺うことができました。

藤原久美子さんは、障害女性の複合差別の解消の取組について紹介されました。中でも女性に介助が必要な場面での、男性介助者による虐待や性暴力被害などの実例を交えたお話は、より弱い立場に向かう「暴力」「人権侵害」に他ならないと憤りを感じました。個々人が尊重され、人権が守られる社会の実現をめざす藤原さんの活動の重要性と、実情や取組をもっと知ってもらい、多くの人々が連携することが必要なのだと強く心に刻みました。

基調講演、トークセッションを通して、国際的な視点からみた日本の課題を知る大変貴重な機会となりました。

当日は80名を超える方に参加いただき、続く交流会では、クレオ大阪中央内にあるチャレンジカフェ 提供の焼き菓子をいただきながら、参加者同士の活発な意見交換が行われ、和やかな交流の時間となりました。

今、私たちは、これまでの不平等に対して、情熱と連帯で行動を起こしてこられた多くの先輩方が築いてきた歴史の上にいるということを知り、そしてその流れを止めないために、仲間と共に行動することで「未来」をつくっていけるのだと感じる一日となりました。



▶ 「UNWomen×HerPlus勉強会」 2024年9月30日(月)

会場：シェアスペースBLENDS 主催：HerPlus

「女性が自分らしく笑顔で働ける世界」をビジョンに掲げ、様々な活動を展開されている加藤麻理子さんが主宰する、女性を応援するコミュニティ「HerPlus」(ハープラス)の勉強会に、国連ウィメン日本協会大阪会長の三輪敦子が講師として登壇しました。当日は会場とオンラインのハイブリットで開催され、コミュニティに入られているメンバーの方々に向けて、UN Womenの取組や活動内容を紹介したほか、ジェンダー平等における日本の状況や、ジェンダーと女性の働き方(経済参加)の関係性について具体的な事例とともに学びました。

後半では、ジェンダーに関する課題解決に向けて、日々の生活の中で実践できることなどを参加者とともに考えました。出産や育児、働き方、家族のあり方など、話題は多岐にわたり、積極的な意見交換が行われました。勉強会後には、「自身の活動や仕事に生かしたい」、「ジェンダー問題を自分事として考えることができた」といった感想をいただきました。



▶ 「じんけんシネマ2024」 2024年12月14日(土)

会場：クレオ大阪中央 主催：クレオ大阪中央、ヒューライツ大阪 共催：国連ウィメン日本協会大阪

ヒューライツ大阪とクレオ大阪中央主催の「じんけんシネマ2024」がクレオ大阪中央で開催され、国連ウィメン日本協会大阪は、共催団体としてブース出展をしました。当イベントは、映画を通じて、人権課題への理解を深めることを目的に、毎年12月に開催しており、今回で7回目になります。2024年は、『マイスモールランド』と『パレードへようこそ』の2作品を上映しました。参加者からは、「人権が尊重される社会になってほしいと痛感した」、「誰もが自分らしく心豊かに生きる権利を持ち続けられることが大切だと思った」、「正しい情報を知ることが大事だと改めて感じた」、といった感想をいただきました。上映後には、ブースに立ち寄られ、「次回のじんけんシネマも楽しみにしています」といった声や、映画の感想を直接お聞きすることができました。



2025年3月1日(土)

ネットワーク会議に参加しました。

2025年3月1日(土)に「国連ウィメン日本協会 協力協定団体ネットワーク会議」が婦選会館(東京)にて開催されました。会議には、東京、北九州、さくら、大阪の協力協定団体が参加し、2024年度の活動報告や2025年度の事業展開について、各団体ごとに発表をしました。各団体発表後の意見交換では、資金調達の難しさが共通課題としてあげられた他、チャリティイベントのあり方や、会員へのサービスについてなど、活発な意見交換が行われました。会議後には、3月8日の国際女性デーに開催されたウィメンズマーチ東京への参加に向け、「世界の女性と少女に希望の未来を届けたい」というメッセージの入った横断幕を掲げ、みなさんと一緒に行進のリハーサルを行いました。他の協力協定団体の方々と直接意見交換や交流をすることができ、大変有意義な一日となりました。





2024年度、募金及び会費収入は、223,263円でした。 温かいご支援とご協力をありがとうございました。

2024年度、「会費」及び「寄付金」納入者一覧（2024年1月1日～12月31日）
＊お名前の公表を了承いただいた方のみ、掲載させていただいております。（五十音順に掲載）

伊藤 裕美 様	加藤 佳津子 様	沢田 薫 様	野間 麻子 様	森屋 裕子 様
井山 稜子 様	加藤 麻理子 様	鹿野 幸枝 様	堀口 節子 様	山内 千鶴子 様
上杉 孝實 様	木下 孝祐 様	瀬戸口 恵美子 様	堀口 良子 様	山川 文子 様
大阪市地域女性団体協議会 様	黒台 裕子 様	田村 まき 様	本庄 紀子 様	山本 愛 様 他
大阪Iゾンタクラブ 様	小山 皖子 様	合同会社 つむぐの森 様	松田 洋子 様	
小原 純子 様	佐々木 邦子 様	中村 友美 様	松村 英子 様	

上記の募金及び会費収入やその他の収入を合わせて、国連ウィメン日本協会への拠出金やイベント事業費、ウクライナ支援募金、ガザ支援募金に活用させていただきました。



団体会員紹介

2024年から団体会員になりました、HerPlus(ハープラス)を主宰している加藤麻理子です。私たちは大阪阿倍野を拠点に全国にメンバーのいるコミュニティです。互いに学び合う活動を通じて、ジェンダーギャップのない次世代をめざしています。具体的にはゲストを招いての勉強会や交流会、女性が活躍できるイベントの企画などです。活動のきっかけは、私自身が子育てと仕事の両立で苦労したことでした。当時、ジェンダー論を専門にされる先生とお話し、この葛藤の原因は自分や家族にあるのではなく、社会の仕組みや偏見にあると学び、目から鱗が落ちるようでした。そこから私は子どもたちの世代には同じことで絶対に悩んでほしくない、と思い、コミュニティを立ち上げました。ジェンダーの問題はセンシティブではありますが、子どものことを思うと、ジェンダーや世代を超えて力を合わせられると私は信じています。国連ウィメンでもたくさん学ばせて頂き、みなさんと一緒に一歩ずつ前進していきたいです。



株式会社HerPlus 代表取締役
加藤 麻理子 さん



合同会社つむぐの森 代表
杉浦 むつみ さん

このたび、国連ウィメン日本協会大阪に団体会員として入会いたしました、合同会社つむぐの森の杉浦むつみです。私は、乳幼児とその保護者を対象に、親子教室や親子サロンにて子育て支援に携わってきました。また、児童発達支援の運営を通じて、子どもが自分らしく成長できる環境づくりにも努めています。核家族化の進行や高齢出産の増加により、子育ての孤立や負担の偏りが深刻化する中、育児と仕事の両立に悩む女性は少なくありません。今、私たちにできることは何か、次世代に伝えるべきことは何かを考え、母親だけでなく父親や地域の人々と共に「社会全体で子どもを育て、ともに成長する」をモットーに活動を続けています。女性のエンパワーメントやジェンダー平等を推進する国連ウィメン日本協会の理念に共感し、学びを深めながら、安心して子育てできる社会をめざし、尽力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

世界の女性とつながろう

国連ウィメン日本協会大阪 入会案内

国連ウィメン日本協会大阪は、女性のための国連機関であるUN Womenを大阪から支援する団体です。皆さまからの募金、及び活動の純益は、UN Womenを通じ、世界の女性と少女のために使われます。

会員募集

年会費(1月1日～12月31日)

個人会員：1口 2,000円 以上
団体会員：1口 5,000円 以上

寄付金、年会費の振込先

ゆうちょ銀行振替口座

口座記号番号：00900-9-207691
加入者名：国連ウィメン日本協会大阪



会員のみなさまには、各種お知らせ、イベントのご案内等をお送りいたします。

世界の女性と少女の笑顔と未来を
大阪から支えるために、
是非お力をお貸しください！



国連ウィメン日本協会大阪 事務局

〒543-0002
大阪市天王寺区上汐5-6-25
大阪男女いきいき財団内
TEL：06-7656-9040 FAX：06-7656-9045
HP：https://danjo.osaka.jp/unwomenosaka/

